

像高 48.5 学。花長地区

歷史資料&美術

▽単弁蓮華文軒丸瓦



旧本学跡の発掘調査 で出土した古瓦。7世 紀後半、堂宇の存在を 物語る。甚目寺資料館

平安時代の作。その装飾品 から天台宗の円珍系統の 影響を指摘される。甚目寺 資料館で複製を展示中。

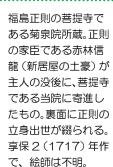
▼重要文化財「絹本著色不動尊像図」...



木田八剱社の「湯の花神事」に使用される湯釜 は享和2(1802)年、20数名に及ぶ村民に より奉納された。今も5釜が使用され、うち1 つは国学者で本居宣長の高弟「大館高門」の一 寄進である。★大館高門オオダチタカカド: 1766-1839. 木田出身。木田家から大館家に養子入り。国学 に精通、地域の文化発展に寄与した。



△「親鸞上人御影」 下之森 • 順正寺所蔵。 天正9 (1581) 年、 本願寺教如より当寺 へ寄進されたもの。



△「福島正則公肖像」



▲市指定「徳川家康筆 徳政之事」

縦 31 学×横 45 学。永禄 7 (1564) 年筆。作 岡代官の河合宗在に徳政令摘要の除外を認めた 家康直筆の文書。内容は、河合家は末代まで徳政 を除く、米銭の催促をしても良いといったことが 記される。美和資料館所蔵。

●小笠原登関係文書 書簡はじめその自筆日 記等が生家である圓周 寺に保管される。近年、 ハンセン病治療の現場 を垣間見ることができ る貴重な資料として注 目を集める。



▼重要文化財「鉄蔵地蔵菩薩立像」

像高 157.4 学。 寛喜 2 (1230) 年作。 中橋 地区の法蔵寺の本尊。江戸時代より子安延命 地蔵として広く信仰される。

> 乗雲来迎形式の鉄地蔵で、頭部は剃髪、 円頂無冠の僧姿。顔の各部の彫り口が浅 く、身体の肉付きも低平なため、力強さ よりは温和な印象を与える。元々は蓮華

寺奥之院に安置される も、蜂須賀小六により、 運びだされ、今の地に 移されたと伝わる。

の普明院の本尊。明応9 (1500)年の作。近年の 調査により銅製である こと、顔に金箔が貼ら れていたことが判明。 袈裟の右袖部分の 刻銘によれば、願 主ら数名の名があ り、甚目寺仁王大工 に依頼し、本像を鋳 造したことが刻ま

▲市指定「金銅阿弥陀如来立像」

れる。

蓮華寺の二十五菩薩お練り供養で、かつて 使用されていた菩薩面。近代の補彩で当初 の面影は失われているものの、制作は室町 後期から江戸初期と思われる。ちなみに県 内では江南市・曼荼羅寺と当寺にしか現存 しない貴重な面である。

▲市指定「二十五菩薩面(菩薩面・地蔵面)」



(1597)年、福島正 則の奉納によるもの。 造形的に優れ、しかも 年紀・奉納者・作者の 判明する桃山時代に おける仏像彫刻の一 級資料といえる。

像高 102 学。かつて甚目寺三重塔内に安 置された像で、弘安7(1284)年性海寺 (稲沢市)より其目寺に移された。近年の 調査で、胎内に 10 学ほどの合子が見つか



建造物

甚目寺南大門

あま市で最も古い木造 の建造物。伝説では建 久年間に源頼朝の命に より梶原景時が奉行を つとめ建立した。

★大正期撮影

三重塔

名古屋両替町の吉田 半十郎 (1584-1657) が、寛永 4年(1627) に一寄進により建立 した。

★昭和30年代撮影



▲重要文化財「甚目寺南大門」



▲重要文化財「甚目寺三重塔」

工藝

↑市指定「間取り花鳥文大花瓶

高さ 150 学。七宝焼アートヴィ レッジ所蔵。同館の常設展示室 にて展観中。明治30年頃、遠 島で製造されたという。



七宝町桂の廣済寺所蔵。宝 暦 11年(1761)、尾張の水 野平蔵家により製造。

天然記念物

▼県指定「下萱津フジ」

平成 22 年度よりあま市 の管理となる。樹齢360年の古樹で、 地域の春の風物詩として親しまれる。 平成25年度より2日間限定で一般公 開を再開する。★(下)昭和初期撮影



風習や祭事[無形民俗]



△金岩地区「ダンゴモライ」 昭和40年代まで行われていた盆の夜の行 事で、金岩地区は体に墨を塗った子ども達

が、お供え団子を集める風習があった。



▲市指定「香の物祭」

毎年8月21日に菅津神社で執り行われる 「香の物祭」は、熱田神宮へ奉納するため の漬物を漬け込む神事で、全国的に珍しい。



△蜂須賀地区「ヨメイリ」 嫁入りする家の縁側に、地 区の地蔵を並べ、子宝に恵 まれるよう祈る風習。



▲市指定「二十五菩薩お練り供養」

蜂須賀の古刹蓮華寺で毎年4

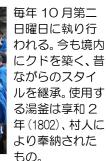
月第三日曜日に執り行われる。境内に設置された約80メ ートルの渡り廊下に25の菩薩が練り歩く。



▲市指定「下之森八幡社オコワ祭」 毎年2月11日に実施さ れる。お櫃に入れた強飯 をコモ網に納め、石に叩 き餅状になったオコワを 奪い合うもの。



▲市指定「木田八剱社湯の花神事」



史跡など



現在は鐘楼の台石のひとつとに組み込まれているが、元々は三重塔の柱を支える礎石であったというもの。

太平洋戦争中の昭和 19 (1944) 年の秋に完成した陸軍の飛行場。 甚目寺と清洲にまたがる広大な敷地に建設された。

建設には地元住民はもとより国民学校に通う小学生までも動員されたという。戦後、国に請願し苦労の末、農地に戻した。 (昭和20年米軍撮影)





江戸時代より方領地区で栽培されてきた大根で、かつて尾張藩主にも献上したとか。昭和40年代までは地元農家を中心に採種組合を結成し大根の種を全国各地に販売した。方領大根は煮込みに最適と、今も自家消費ではあるが栽培する人が多い。(昭和40年代撮影)



北米 (アメリカ) 移民 △ 明治30年以降、あま市でも伊福、篠田といった地域から北米 (アメリカ) に出稼ぎする若者が多くいた。言葉の通じぬ異国の地にて艱難辛苦の末に財をなし帰国し、地域の寺社に奉納し、故郷に錦を飾った。



伊福部神社の大灯 篭一対は、同地区の 渡米者の寄付による



△**連理の古木(榊)** 萱津神社の古木。枝と枝がつな がる自然現象を連理と称し、吉 兆の前触れとした。現在は縁結 びのスポットとなる。



△林小傳治翁善行碑 明治35(1902)年建立。 七宝焼を海外に知らしめ た人。万国博にて、その芸 術性を認めさせた。



△宮治周平墓碑(筆子塚) 森山の慶運寺の墓地に建つ筆 子塚。寺子屋師匠として、500 名を超える門人を育成し、地域 の教育振興に尽力した人。

▽安寧祈念の木(クロガネモチ)



伊福地区の東光寺にあるクロガネモチ。昭和20(1945)年3月米軍機の焼夷弾により被災するも、今なお成長を続ける。安寧祈念の木として信仰される。

▽山﨑翁頌徳碑



あま市の伝統産業のひとつで、刷毛技術を伝え広めた 山崎政三郎の頌徳碑。同地 区の刷毛会館前に建つ。

▽阿波手の杜



ヤマトタケルとミヤヅヒメノ ミコトにまつわる悲哀の地。古 くより知られ和歌にも詠まれ る。大正期までは杜が残ってい たが、今は石碑が建つ。



